

## ま法の日記

岩佐 葵

私の祖母は、時々私の名前を忘れる。父の名前も姉の名前も忘れる時がある。不思議なことに母の名前は忘れたことがない。私の事を覚えていない祖母に会いたくなくて、面会に行かない日が続いている。

祖母は認知症と診断される前から日記を書いていた。母にその日記を見せてもらったことがある。その日にしたこと、感じたことを自由にノートに書いていた。最近記憶が薄れないように、覚えていることを必死に書いていた。電化製品の使い方、家族の電話番号、看護師さんの名前など、毎日繰り返し書いていた。

父は、母である祖母が記憶をなくしていく状態を悲しんでいた。そして何度も同じことを聞いてくる祖母にいらだっている時もあった。ある日、その日記を見つけて読んだ父は涙を流していた。

「泣いてないで。ちよつと鼻水がでただけやで。」

父はそうごまかしていたが、父の気持ちは私にもわかっていった。

日記には、家族への想いもたくさん書いてあった。優しい親孝行な父。おっとりしているけど人一倍優しい姉。いつも熱心に何にでもチャレンジする私。自分(祖母)に似ているからすぐに仲良くなれた母。認知症になり記憶が薄れていく中で、祖母は以前と変わらず私たちを見守っていてくれたのだ。祖母の言葉で私はいつも元気をもらう。今、このしゅん間の記憶がなくなっても、祖母の中には確かに家族への気持ちがあふれていることが分かる日記だった。祖母は今も私たち家族と共に生きているのだ。

次に会う日は私の名前を覚えていてくれるかな。もし忘れていても、もう一度教えればいいんだね。名札を胸にそつと付けて行くのもいいかもしれない。いつも日記で私をほめてくれてありがとう。その言葉に元気をもらっているよ。祖母にそう伝えたくて今すぐ会いたくなった。早く祖母に会いに行きたいな。そう日記に書いて眠った。

## 評価のポイント

祖母の病気について、状況を受け止めつつ前向きに過ごす様子がよく伝わってきた。